

【特別支援学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

様式1（特別支援学校）

学校名	佐賀県立唐津特別支援学校好学舎分校		
1 前年度 評価結果の概要	<p>◇すべての領域・項目において、目標に挙げていた内容については達成できた。</p> <p>◇まだまだ、学校づくりの途中であるので、項目全般でさらなる向上を目指して取り組んでいきたいと考える。</p>		
2 学校教育目標	児童生徒一人一人に応じた教育活動を通して、子どもたちの持つ可能性をできる限り広げ、校訓にうたっている「明るく元気に生きる力」「心豊かに生活する力」「たくましく自立し社会に参加する力」をはぐくむとともに、他人を思いやることのできる児童生徒を育成する。		
3 本年度の重点目標	<p>① 児童生徒の自立と社会参加を目指した教育活動の推進に努める。</p> <p>② 新学習指導要領を踏まえたうえで、児童生徒のこれまでの成育歴、特性に配慮しながら、教職員が教育目標、教育活動について意思統一を図る。</p> <p>③ 分校に通う児童生徒についての指導、支援について、専門性の向上を図る。</p> <p>④ 児童心理治療施設「好学舎」や関係機関と連携し、支援体制の確立を図り、学校運営を円滑に遂行する。</p> <p>⑤ 業務および組織の見直しを常に行い、働き方改革の推進に努める。</p>		

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●学習に取り組む態度の育成 ●児童生徒一人一人の現状や特性に応じた指導・支援による学力の定着	○授業への取り組みが向上した(理解度、授業を受ける態度など)と認められる児童生徒70%以上 ○テストの成績が向上した児童生徒70%以上 ○家庭学習の定着:課題を確実にこなす、提出する児童生徒70%以上	・児童生徒の実情に応じて取り組みやすい授業(活動時間を調整したり、学習内容を変更したり)して行う。 ・学習環境や学習形態などを工夫する。(電子黒板やタブレット端末等のICT機器を効果的に使用したり、一斉授業ばかりでなく、個別に対応する時間を設けたりする。) ・負担が少なく、取り組みやすい課題を提供する。	B	・児童生徒の様子を細かく把握し、ひとりひとりに応じて、取組時間調整や学習内容の調整を行っている。そのことで、授業に落ち着いて参加したり、集中して参加したりできるようになった児童生徒が増えている。それに伴い成績の向上が見られた児童生徒もいる。 ・今の状況を継続していくと、目標はおおむね達成できると考えられる。	A	・児童生徒に応じた授業を心がけたと全職員が答えた。保護者の90%も同じく感じている。また、学習環境や形態を工夫したことで児童生徒の授業への取組は向上したと全職員が感じ、保護者も70%以上同じように感じている。テストの成績についても上記の取り組みに比例して向上したと職員、保護者ともに感じている。課題については内容を工夫したことにより提出できている。 ・目標は達成できたと考える。	A	・目標は達成できているので、適切に取り組んでいると思われる。引き続きがんばってほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○生活態度が向上したと思われる児童生徒60%以上 ○自立活動の時間などに、自分自身を振り返ったり、思いを適切に話せるようになったりした児童生徒60%以上 ○友達や、教師との接し方が変容した児童生徒50%以上	・児童生徒へ授業等での一方的な伝達だけでなく、学校生活の様々な場面場面で、教師が手本となって態度を示す。 ・児童生徒の思いを引き出すような問いかけや話し方、関わり方を行う。	B	・左記の具体的取り組みを、学校生活全般を通して継続して取り組むことで、児童生徒の生活態度も変化している。また、少しずつ自分の思いを以前より適切な形で表せるようになってきている。 ・今後も継続していく必要はある。	A	・生活態度は、職員、保護者ともに向上を感じている。振り返りや思いを適切に話したりということについては、職員はほぼできていると思っているが保護者では65%にとどまっている。関わり方等に工夫が必要と思われる。人とかかわりについては、職員、保護者とも良い方向へ変容したと感じている。	A	・目標は達成できているので、適切に取り組んでいると思われる。 ・今後は、もっと児童生徒が自分の思いを出せる環境づくりに努めていただきたい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの問題への対応で、トラブルや問題を見逃さずに対応したと思う職員85パーセント以上	・いじめに関する話題を学期に1回以上取り上げて、職員へ周知を図る。 ・学校生活での児童生徒の様子を細かく見取り、異状を感じたら情報を収集し、速やかに校内・好学舎等、関係者で共有し対応を行う。	B	・学校の生活場面でいじめは確認できなかったが、生活の場である隣接する施設内で2ケース確認された、そのことを引きずってくる場合があるので、学校生活場面でも細やかに見取るようになっている。 ・施設におけるいじめ案件の報告は、学校職員のいじめに関する意識の向上につながっている。	A	・児童生徒間のトラブルや問題については、職員は全員、保護者も80%は対応したと答えている。学校におけるいじめ認知は1件であったが、些細なトラブル、問題にも学校と施設と連携して対応にあたり、案件に素早く介入することで児童生徒がいつまでも問題を引くことなく生活できていると思われる。今後も、連携を強化して見守ってほしい。	A	・目標は達成しているが、これに甘んじることなく、細かく児童生徒の様子を把握し、トラブルへの即時対応を継続して行ってほしい。
	◎児童生徒が夢や希望を持ち、将来の自立と社会参加に向けて意欲的に取り組むとするための教育活動	◎「児童生徒の希望や状況等に応じたキャリア教育及び職業教育ができています」と回答する施設職員50%以上	・個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成において本人や保護者の希望やニーズを的確に把握し反映させる。 ・自立活動や学級活動の時間において、本人の将来の夢や進路希望などを聞き取り、将来をどのように考えていくか導いたりしながら見通しをもたせていく。 ・キャリア教育を意識した教育活動を提供する。 ・中学部における進路指導の充実を図る。(職場体験、見学、高校説明会等の実施)	・計画の作成にあたっては、分校への転入時に本人や保護者等に確実に聞き取りを行い、反映させた。 ・自立活動や学級活動の時間で必要に応じて将来にかかわることを取り上げ、授業を展開することができた。 ・学校生活全般の中で、キャリア教育を意識した教育活動を提供することができた。 ・中学部において、職場体験や見学、高校説明会を実施した。また、個別で学校見学も実施した。	A	・計画の作成にあたっては、分校への転入時に本人や保護者等に確実に聞き取りを行い、反映させた。 ・自立活動や学級活動の時間で必要に応じて将来にかかわることを取り上げ、授業を展開することができた。 ・学校生活全般の中で、キャリア教育を意識した教育活動を提供することができた。 ・中学部において、職場体験や見学、高校説明会を実施した。また、個別で学校見学も実施した。	A	・学校では「児童生徒の希望や状況等に応じたキャリア教育及び職業教育ができています」と保護者全員が回答した。職員もほぼ計画どおりに取り組んだと答えた。 ・十分に目標は達成できている。	A
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○一人一人の登校率90%(特段の理由のない欠席を10%以下に抑える。) ○遅刻しないで登校できた日80%以上	・リズムよい、メリハリのある学校生活を提供する。 ・学校を嫌がらない環境づくりや授業設定をする。 ・登校のモチベーションをあげるため関わり方を工夫する。	B	・ほとんどの児童生徒が毎日、登校した。 ・特定の児童2名が、生活リズムが確立できず遅刻が多かったが、徐々に改善してきている。	B	・アンケート結果より特段の理由のない欠席は見られなかった。 ・生活リズムがついていくにつれ、遅刻も減少し、分校全体でみると80%以上は時間通りの登校ができている。	B	・続けてほしい取り組みです。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。 ●会議や研修時間の厳守、勤務時間を超えない設定	・毎週金曜日を定時退勤日に設定する。 ・時間外勤務の軽減のために学校行事等の内容や取組を見直す。 ・学校閉庁日を4日間設定する。	A	・時間外勤務については、特定の職員が多くなっている傾向があるが、規則を超える時間外勤務はなかった。 ・職員のほぼ全員が、無理なく業務をこなしている。	A	・時間外勤務時間は、特定の職員が多い傾向があるが、規則を超えるものはなかった。 ・会議や研修も効率よくすすまれていると職員のほぼ全員が感じている。	A	・継続して進めていただきたい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○関係機関との連携の推進	○児童相談所や関係校、好学舎との連携強化、充実	○児童相談所との情報共有のケース会等の1回以上の開催 ○転入時の引継ぎ会の開催100%	・好学舎との細やかな情報交換、情報共有を行う。 ・児童相談所への連携強化のための啓発を行う。(ケース会開催の依頼) ・前籍校との引継ぎ会を充実させる。	A	・施設との情報交換は随時実施できている。 ・児童相談所、関係機関との協議会も1回は開催された。また、児童相談所を交えてのケース会などにも参加し、情報交換を行うことができた。 ・関係校(前籍校)との連絡会も実施できた。	B	・県外からの転入者が増加し、児童相談所と直接、情報共有をすることが難しかったが、県内については、全部のケースで実施した。相手校との引継ぎについても県外ケースの増加、新型コロナ拡大の影響で、直接は難しかったが、資料でのやりとりは行った。	B	・他県までにわたり難しい部分はあるが、継続して連携を深めていただきたい。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・ほとんどの項目が、目標を達成した。この状況は、今年度だけでなく継続して維持していく必要がある。</p> <p>・児童生徒に関わる部分については、年度内に異動が多いので、その都度、実態を把握し、適切な支援を考え、実施していく必要があり、それを継続していくことが大切である。</p> <p>・関係機関(特に施設以外、県外機関も)との連携については、地道にかかわりを持つようアプローチを続けていきたい。</p>		
--------------------	--	--	--